

論述ブースト No.3

医療倫理の「4原則」で論じる ― 善行・無危害・自律・公正を答案に組み込む

導入文

医療倫理の問題で「患者さんのために最善を尽くすべき」と書くだけでは、採点者には「感想」と読まれる。ピーチャムとチルドレスが提唱した医療倫理の4原則（善行・無危害・自律尊重・公正）を道具として使えると、同じ問いに対して観点を持った論証が書ける。

講義概要

医療倫理の4原則を暗記事項ではなく「論証の枠組み」として習得する。インフォームド・コンセント、終末期医療、医療資源の配分など典型テーマに4原則を当てはめ、原則間の対立をどう論じるかまで体系化することで、医学部小論文・面接の論証力を根本から引き上げる。

授業目標：医療倫理の設問を「感想の論述」から「4原則を軸にした論証」へ変える。

対象者：高2～高3・浪人生。医学部・医療系の総合型選抜・推薦入試で、小論文・面接の倫理的論述力を高めたい生徒。

授業時間：授業90分＋演習・質疑応答30分

到達目標：4原則を自分の言葉で説明できる／テーマに原則を当てはめて論点整理できる／原則が衝突する場合の論じ方がわかる

授業構成（90分）＋演習・質疑応答（30分）

授業90分：1 導入：「感想」と「論証」の違いを比較 2 概念導入：4原則それぞれの意味と具体例を整理 3 適用：インフォームド・コンセントを4原則で分析 4 発展：原則同士が衝突する場面の論じ方を整理 5 演習：終末期医療・医療資源配分の設問に4原則を適用 6 まとめ：「どの原則が中心か」を先に決める習慣

追加30分：200字小論文を4原則に基づいて書く演習と、原則の使い方について個別フィードバック・質疑応答を行う。

板書・スライド骨子：4原則の定義と具体例／原則の適用手順／原則衝突の整理法／小論文骨子テンプレート

課題：「延命治療をどこまで続けるか」を4原則を使って300字で論じる。

備考：高校・予備校の先生方／編入学試験および大学院受験への橋渡しの基礎確認をしたい方にも対応。